

セラピーで陥りやすい過ち

2021.1.17 名古屋定例会

藤坂龍司

ご家庭でセラピーを行う上で、親御さんが陥りやすい過ちについて、まとめてみた。

1. 「しもべセラピー」

子どもに主導権を奪われている。

- ・子どもが欲しい強化子を指さすと、ついそれに応えている。子どもも次の強化子ばかり見ている。
- ・子どもが気に入らない強化子を出すと、突き返される。仕方なく気に入る強化子を出す。
- ・おもちゃの強化子を取り上げようとするので、おもちゃが使えない。ついお菓子だけに。
- ・子どもがおなかが空いている間は、お菓子で課題が進むが、おなか一杯になった途端、機嫌が悪く、あるいはやる気がなくなり、セラピーを終了せざるを得ない。
- ・子どもが好きな課題をすると、喜んでやるので、ついそればかりやっている。苦手な課題ができなくなった。



- ・ほしい強化子を指さしても、それは無視して、こちらが決めた強化子を渡す。それを突き返したら、その時は強化子を与えない。離席は阻止する。かんしゃくは無視して消去。
- ・数試行して、子どもが指ささなくなった頃に、子どもが欲しい強化子にチェンジする。
- ・時々、こっちのタイミングで、複数の強化子を見せて、選ばせるのはよい。
- ・おもちゃの強化子を取り上げるとき、子どもが抵抗してもひるまないこと。素早くつかんで、ゆっくり、しかし断固として取り上げる。
- ・その代わりに、最初は1試行ですぐ強化子を返してあげる。「ママの言うことを聞けばすぐ返してもらえ」ということを学習させる。
- ・お菓子だけに頼らない。お菓子とおもちゃ、休憩、身体強化などを混ぜて使う。
- ・好きな課題ばかりしない。好きな課題は苦手な課題の後のごほうびに。好きすぎる課題は隠してしまう。

2. 「取引セラピー」

「〇〇したら、〇〇あげるから」とごほうびを約束して、言うことを聞かせている。

先に強化子を見せて、椅子に座らせる（見せないとすわらない）。



「強化子は後出し」が原則。いつもごほうびを約束していると、約束しないとやらなくなる。まず問答無用で指示を出す。プロンプトして従わせる。そのあとでいい強化子を上げる。ただしいつどんな強化子を出すかは、大人の気まぐれ次第。子どもに決めさせないこと。「強化子はサプライズ」。

3. 「おどしセラピー」

- ・言うことを聞かないと思いきり怒る。怒るとママは怖い。その恐怖で言うことを聞かせている。

↓

普段はいいが、外では言うことを聞かない。他人がいるところでは思いきりふざける。ママはそういうところでは、怒らないと知っているから。

↓

- ・家の中と外で、差がありすぎるとダメ。家の外に般化させるためには、差を縮めよう。
- ・まず家の中やセラピーの時、できるだけ怒らない。できないときは無視。できたときにほめて、強化子を与える「正の強化中心セラピー」を。そのうえで、強化子を徐々に間引いて、子どもの課題への興味や達成感、大人に認められたいという気持ちを強化子にしていく。

4. 「押し付けセラピー」

- ・子どもの現状を見ずに、この時期にはこの課題ができるようになってほしい、という願望だけで、無理な課題を押し付ける。
- ・発達検査でできなかった課題を、次までにガンガンやらせる。
- ・つみき BOOK の課題進行表を金科玉条にして、あくまでそのモデル年齢に追いつこうと無理をさせる。

↓

- ・子どもは一人一人違う。子どもの今の能力を無視して、無理な課題を押し付けても、失敗が重なり、やる気をなくすだけ。
- ・進行表にとらわれず、子どもの力に合った課題、難しすぎず、やさしすぎない、少し頑張れば達成できる課題を、つねに与えてあげること。それが子どもの学習意欲を掻き立て、能力を最大限に引き出すコツ。

5. 「振り返らないセラピー」

- ・常に新しい課題を追い求め、過去を振り返らない。つまり以前に教えた課題の復習を怠る。たまにやらせてみると、以前にできていたことができなくなっていて、愕然とする。

↓

- ・新しい課題ばかりやらせてはダメ。重要な課題は、頻繁に復習すること。「覚えたことは必ず忘れる」。忘れてほしくなければ、復習にある程度の時間を割くこと。「新しい課題6：4復習課題」くらい。

6. 「インプットセラピー」

- ・絵本の読み聞かせは、いいと聞いたので、ずっと続けている。毎日何冊も本を読み聞かせている。しかし一向に言葉は増えない。
- ・フラッシュカードがいいと聞いたので、たくさん見せている。しかし覚えているかどうか不安。
- ・何かを教えるとき、なるべく印象付けようとして、何度も名前（正解）を言って聞かせている。

↓

・事前の「インプット」だけでは、なかなか学習は起こらない。それよりも、子どもの反応を引き出して、それを強化することが大切。

・絵本を教材にするときは、ただ読み聞かせるのではなく、「うさぎはどこ？」などと言って指ささせたり、「何が出てきた？」「どうなった？」と変化を聞いたり、「男の子、何してる？」と主人公の動きに着目させ、質問に答えさせる。ただ読み聞かせているだけでは、何かを学習しているかどうか、確かめるすべがなく、膨大な時間の浪費に過ぎない可能性がある。

・フラッシュカードで覚えていくのは、そういう才能がある一部の子だけ。わが子にはそういう才能はないと思った方がよい。それより、「言って選ばせ、聞いて答えさせる」。常に子供の反応を引き出す、「アウトプットセラピー」を心がける。